

若い人たちに語り継ぎたい。そして、次の世代に残してほしい貴重な話しをお届けします。

お年寄りたちの貴重な体験談 (第十九回)

あすへひとこと



年越しには篠塚産のそばを大釜でゆでる

慌ただしい暮れの大掃除から正月の準備開始である。庭に畳床を一枚ずつ並べ、太陽によく当たるようにして日光消毒をする。神棚はもちろん仏壇も磨いて家の内外を家族総出で掃き清める。

次に骨の折れる作業ではあるが楽しい「餅つき」が始まる。昔のことで餅つき機などはないから、大きなうすときねで、大家族のわが家では、二俵近い餅米を朝早くから一日中、寒さも吹き飛ばし鏡餅やお供え餅などをたくさん作ったものである。

また、しめ縄作りも重要な仕事だった。あらかじめ新わらの香り豊かな柔らかい



るちのわらを選別し、大神宮様、恵比寿様、稲荷様、年神様のお飾りを作り、母屋、物置、お勝手、便所にしめ縄の飾り付けを行った。行く年来る年、毎年の繰り返しだが、過ぎ去った一年を無事に過ごすことのできたことに感謝しながら、家族それぞれの思い出を胸に、みそかを迎えたものだ。

年越しそばは自宅で作った。篠塚産のそばを大きな釜でゆで何杯もお代わりをして食べた。

さていよいよ元旦の朝が訪れる。門松やお飾りにおそばを供え、神々に今年の豊作を祈願する。それから村の鎮守様である長柄神社に参拝、お年始めに参り、お寺さんにもお年始に行く。子どもたちはたこあべ、こま回しなど、

ひさしぶりにお年玉をちようだいしたので元気に遊びに夢中だ。そして親類や知人友人のお年始の客が次から次へと訪れ、今考えると男衆にとってはまことに楽しい毎日だったようだ。

現代は、正月を海外や温泉で過ごす人たちが何十万人というマスコミ報道を聞くにつけ、隔世の感がある。

高齢者の語り あすへひとこと第五集 邑楽町の盆と正月(平成七年三月三十一日発行)より「年越しには篠塚産のそばを大釜でゆでる」故・小林清一さん(水立大黒・二三区)



昔は年越しそばを自宅で打った



大みそかの夜、日の出を待つ人たち



朝日に映える
金色の葉
(県緑化センター)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▼今年もあと1か月余を残すのみとなり、寒い季節がやってきました。寒さの苦手な私にとっては毎年この季節になると家にもっとお菓子を食べながら、こたつでゴロゴロ。体重もじわじわ増え、毎年記録を更新してしまいます。▼今年の冬も電力需要がひびくしている状況が続いています。1年の中で最もエネルギーを使用する季節が冬だといわれています。こたつの温度設定も「弱・中・強」では消費電力が大きく違い、エアコンも2度下げると約10%の省エネになると聞いたことがあります。▼こたつから出てストレッチ体操や腹筋運動、腕立てなどを行うと体が温まり、ダイエットもできます。今年の冬は、節電と健康管理を心掛けていきたいと思います。(多田)

広報おうら

ORA TOWN Public Relations



平成24年12月号 No.555

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692 (住所記入不要)

☎ 0276-88-5511 (代表)

☎ 0276-47-5007 (企画課直通)

☎ 0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>

E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>

